

## 第 47 回 旧 R D 最終処分場問題連絡協議会の開催結果

- 日 時 令和 5 年 11 月 24 日 (金) 19:00~20:09
- 場 所 栗東市総合福祉保健センター (なごやかセンター) 集会室
- 主な質疑・ご意見 (⇒県の回答)

## 1 前回の開催結果の確認について

- ①処分量の推計に関する断面図について、昭和 60 年時点の地山 (自然の土) の線が昭和 55 年の線より上に上がっているのはどういうことか。  
⇒昭和 55 年の届出では、地山の上に廃棄物を埋め立てる部分が図面に示されている。昭和 60 年の届出では、その部分が既に埋め立てられた状態で、その後に廃棄物を埋め立てようとする部分が図面に示されている。その図面にはその下が廃棄物か土かを区別しない地表面が描かれており、地山 (自然の土) の線ではない。
- ②処分量の推計に関する断面図では、廃棄物の底面が平らになっている。県は以前から水が北西方向に川みたいにもみちを通って流れていると説明しているが、矛盾しているのではないか。  
⇒この図面は平成 19 年度のボーリング調査を基に作成したもので地点数が少なかった。平成 22 年~平成 23 年に詳細なボーリング調査を実施し、地山の粘土層の谷があり、底面付近に流れる勾配があることを確認している。
- ③アーカイブ (総括編) で R D 問題に関わってきた一般職員にはヒアリングはしないとのことだが、当時の一般職員にもヒアリングをして、実態を明らかにしてほしい。  
⇒一般的に県の職員に過去の状況を聞くことはよくあることである。実際には、一般職員に聞くこともあり得るし、そういった意味でアーカイブの中に反映されることになる。
- ④アーカイブ (総括編) については、当時の知事にも聞いてほしい。  
⇒知事については、書面等の記録も残っており、公になっていることが多いので、県としては考えていない。

## 2 令和 5 年度第 2 回モニタリング調査結果について

- ⑤1, 4-ジオキサンの分析結果の評価で、値が一様に上昇したことについて推測される原因が見当たらないとあるが、何かあるのではないか。  
⇒500m も離れた地点で同時に上昇していることはあまりないので、推測は難しい。また、9 月に追加調査した時はもう下がっていた。今後の調査結果を注視していく。
- ⑥1, 4-ジオキサンの分析値が上昇したのが 1 か所だけでないことが気になる。概ね 2 か月後に調査した時は、平常値に戻っているが、何か天候など特別な状況があったのか。  
⇒広範囲に同時に上昇しているので、天候の影響も考えてみたが、Ks2 層では雨や温度の影響を受けないので、それも考えにくい。今後もデータを積

み重ねてしっかり見ていく。

⑦No. 3-1 地点のひ素はだんだん上昇しているように見えるが、自然由来でもこのように上昇するものなのか。

⇒No. 3-1 地点のひ素が自然由来であることは、いろいろなデータを見た上で調査を行って検討しており、間違いないと考えている。ひ素は、自然の土中に含まれており、地下水の水質の状況によって溶けやすくも溶けにくくもなるため、自然由来であっても変動することがある。また、グラフのデータは対策工事着手後から記載しているが、工事着手前はもっと高い数値が出ていたこともある。

⑧pHがアルカリになるとひ素が出るという傾向があるということだが、ということは、処分場はコンクリート殻が入っていることから、アルカリ水が発生するため、それが入ってくると自然由来のひ素が高くなるということは考えられないか。

⇒洪水調整池については、中の廃棄物に触れていない表流水なので別であるが、処分場内の浸透水については、そのようにpHが上がってくるとひ素が溶出してくることも考えられるので、一般項目の数値についてももしっかり監視していく。

3 維持管理の状況について  
特に意見等なし